

- 今回は体験学習やまち歩き的时间がメインだったので、とても身近に感じられました。実際にまち歩きをしてみると危険な場所はまだまだ多く、よくまちを見ないと、と思いました。
- 私は「景観みどり室」になったので、まちの自然を見つけたりしました。鶴嶺八幡宮のイチョウはとても迫力があり、凄かったです。神主さんのお話も、私が知らなかったことを聞いて良かったです。また、まちの危険なところを探していけたので、今後は気を付けようと思いました。私が知らない茅ヶ崎市を知れて、とても楽しく、勉強になりました。
- 思った以上にブロック塀が多くて驚いた。大きな地震が起きた時に、あんなに人より大きなブロック塀のところにいて、挟まれたり、下敷きにされたら、たまったもんじゃなないなと思った。最初の体験は見ていて本当にすごかった。
- 自分の身近な道に危険があった。ブロック塀やヒビの入った道などに危険を感じた。これから気を付けて危険に立ち向かわなければいけない。ミッションでは、ホースで水を出せて楽しかったし、二度とできない体験をした。



■第2回ワークショップのまとめ（東京大学生産技術研究所 加藤先生）



体験学習で行った火災実験はかなりの迫力でしたね。実際に密接する住宅地で延焼すると、炎が20～30mの高さまで上がるような大きな火災になる場合があります。そのように炎が激しくなってしまうと消火は間に合わないの、そうなる前に地域でどうするのか、という考え方が重要です。もっと言えば、「火が出ないようにする」ということが、根本的な課題になると思います。

「百聞は一見に如かず」という言葉がありますが、体験学習やまち歩きを行った今回のワークショップは「百見は一体験に如かず」という回でした。さらに、次回以降のワークショップでは「百回教えられるよりも、一回ちゃんと自分で考えた方が良い」という展開になっていきます。今回のワークショップで体験したことや刺激を受けたことを次回につなげることができれば、大変盛り上がる良い議論ができると思います。

■ワークショップの今後の予定 まだ参加されていない方のご参加も、お待ちしております！

回数	日付	時間	概要
第1回 (終了)	平成29年 10月29日	9:00～ 12:00 (180分)	防災“も”まちづくりについて学び、考えよう ・ 加藤先生からの講演／鶴嶺東地区の市街地状況／地域の活動 ・ 鶴嶺東地区防災“も”まちづくり研究所の設立式
第2回 (終了)	平成29年 12月2日	9:00～ 12:30 (210分)	防災“も”まちづくりの視点で鶴嶺東地区を見てみよう！ ・ 体験学習 ・ 防災“も”まち歩き／まち歩きマップをつくろう
第3回	平成30年 1月28日	9:00～ 12:30 (210分)	「防災“も”まちづくり」のアクションプログラムを考えよう！ ・ 地区の良いところ・悪いところと地域資源を考える ・ アクションプログラム／キックオフイベントの検討
第4回	平成30年 2月24日	9:00～ 12:30 (210分)	防災“も”まちづくり「キックオフイベント」を考えよう！ ・ キックオフイベントの企画案の作成 ・ アクションプログラムに沿った活動の継続方法の検討

鶴嶺東地区「防災“も”まちづくりワークショップ」ニュース Vol.2



鶴嶺東地区で「体験学習」と「まち歩き」を実施しました！

茅ヶ崎市では、東京大学生産技術研究所の加藤孝明准教授のご協力のもと、平成21年度から「防災都市づくりワークショップ」（昨年度から「防災“も”まちづくりワークショップ」に改称）を実施し、地域のみなさんと一緒に災害に強い都市づくりを進めております。

今年度は、鶴嶺東地区のみなさんと一緒に、全4回のワークショップを実施しています。ワークショップでは、鶴嶺中学校の生徒の方々にも多く参加していただき、鶴嶺東地区のまちづくりについて考えます。

2回目の今回は、地震、火災の発生状況を再現した「体験学習」と、鶴嶺東地区の課題と良いところを見つけながらまちを歩く「防災“も”まち歩き」を実施しました。

～第2回 鶴嶺東地区「防災“も”まちづくりワークショップ」で行ったこと～

＜はじめに＞

あいさつ

＜体験学習＞

「そのとき、まちは…」

＜レクチャー＞

- ・ まち歩きの実施方法の説明
- ・ まち歩きの視点を確認しよう

＜まち歩き＞

- ・ まちを見て、地域の危険や地域資源を知ろう
- ・ まちで見てきたことをまとめよう
- ・ Google Earth体験

＜発表&講評＞

- ・ まち歩きで取り組んだこと（参加者より）
- ・ 加藤先生からのコメント

＜閉会＞

- ・ 次回までのミッション
- ・ 次回予告

■「体験学習」と「防災“も”まち歩き」 ▶詳細は、次ページ以降をご参照ください

◆体験学習「そのとき、まちは…」

実際の家や道路に見立てたセットを組んで、地震によるブロック塀の倒壊と、地震にともなう火災の状況を体験しました。

◆防災“も”まち歩き

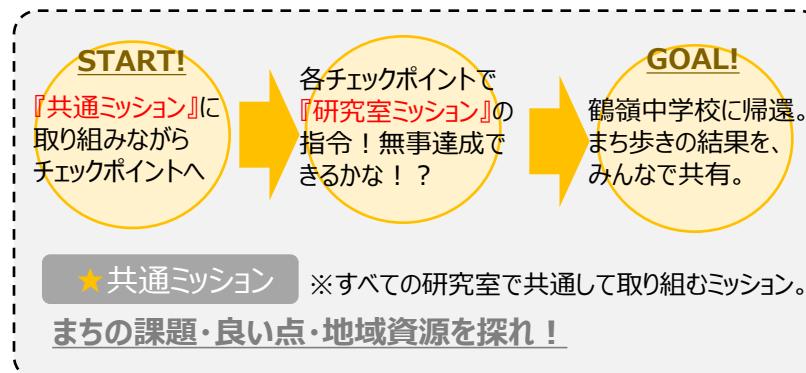
4つの研究室に分かれて、それぞれ異なるテーマのミッションに取り組みながら、「防災“も”まち歩き」の視点で地域をまわりました。



「Google Earth体験」  
指定した地域の衛星写真を見ることができるアプリケーション「Google Earth Pro」の機能をレクチャーしていただきました。表示された衛星写真に、茅ヶ崎市の災害による地域危険度などの防災情報（※）を重ね合わせて表示することもできます。

4つの研究室が**ミッション**に取り組みながら、まちを歩きました

- ✓ 鶴嶺中学校を出発して、まずは『**共通ミッション**』に取り組みながら、それぞれの研究室のチェックポイントに向かいました。
- ✓ 各チェックポイントでは、研究室のテーマに関連する内容の『**研究室ミッション**』が手渡され、研究員みんなで協力して遂行しました。



**防災対策室**

★ **研究室ミッション**

**円蔵第一公園へ行き、防災設備の使い方をマスターせよ**

- チェックポイント**
- ①円蔵の生産緑地
  - ②円蔵第一公園
- 移動式ホース格納箱の使い方をマスター。放水時、想像以上に反動が強くてびっくり！



**まちづくり推進室**

★ **研究室ミッション**

**まちの特徴（ハードとソフト）を探れ**  
(ホームタウン茅ヶ崎、これから歩くまち、TBS分譲地の違いは何か)

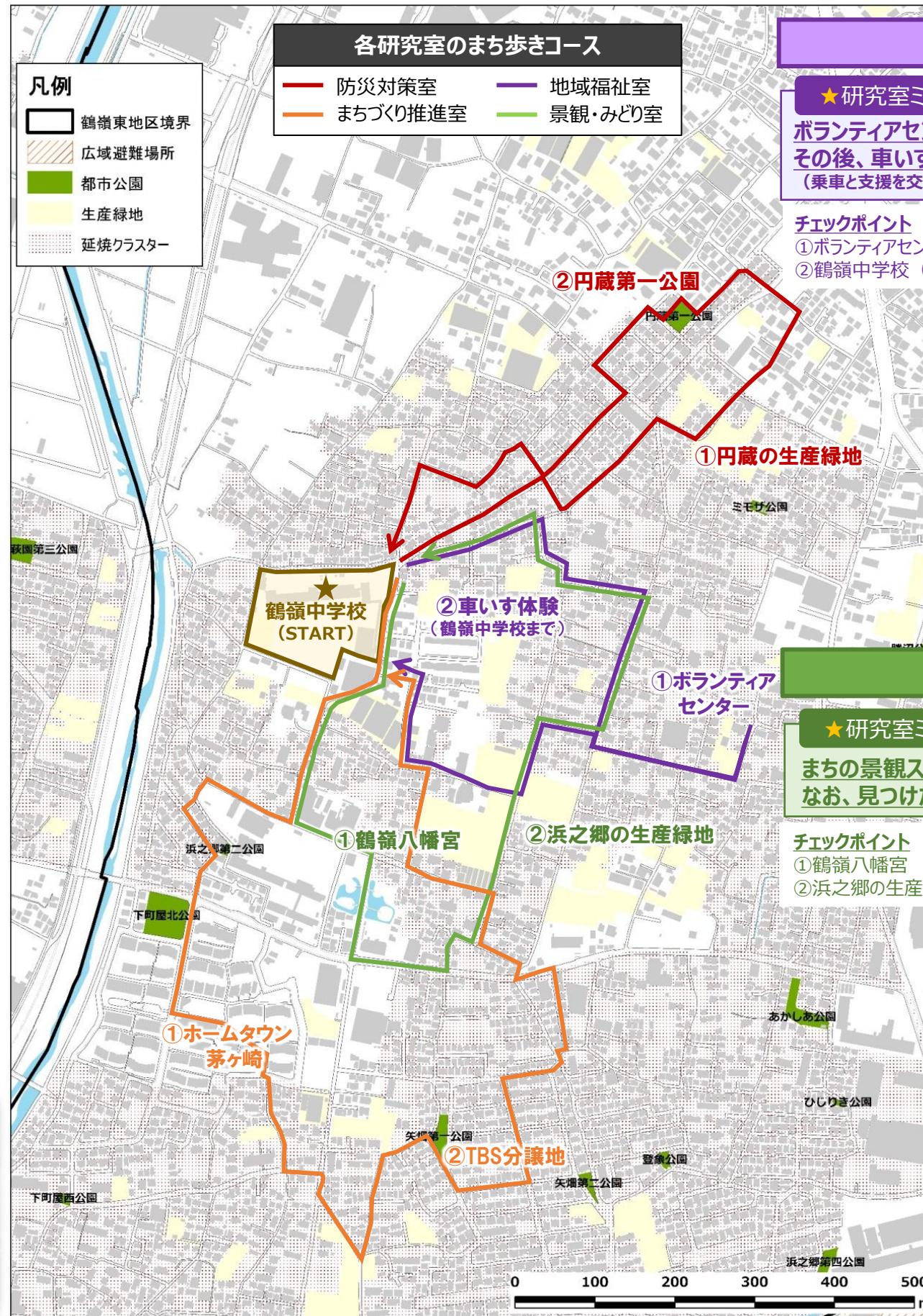
- チェックポイント**
- ①ホームタウン茅ヶ崎
  - ②TBS分譲地
- それぞれのまちの取組や考え方があったり、道路や公園など、まちの特徴を知ることが出来た



**各研究室のまち歩きコース**

- 凡例**
- 鶴嶺東地区境界
  - 広域避難場所
  - 都市公園
  - 生産緑地
  - 延焼クラスター

- 防災対策室 (Red line)
- まちづくり推進室 (Orange line)
- 地域福祉室 (Purple line)
- 景観・みどり室 (Green line)



**地域福祉室**

★ **研究室ミッション**

**ボランティアセンターの役割を確認せよ。その後、車いすを使って中学校までの避難を体験せよ**  
(乗車と支援を交代しながら、全身体験せよ)

- チェックポイント**
- ①ボランティアセンター
  - ②鶴嶺中学校 (ゴール)
- 車いすをはじめて体験。思っていたよりも腕の力が必要だと分かり、大変さを実感しました。



**景観みどり室**

★ **研究室ミッション**

**まちの景観スポットを探せ**  
なお、見つけた場所はカメラを借りて写真を撮影せよ

- チェックポイント**
- ①鶴嶺八幡宮
  - ②浜之郷の生産緑地

大迫力の「鶴嶺八幡のイチョウ」を発見！

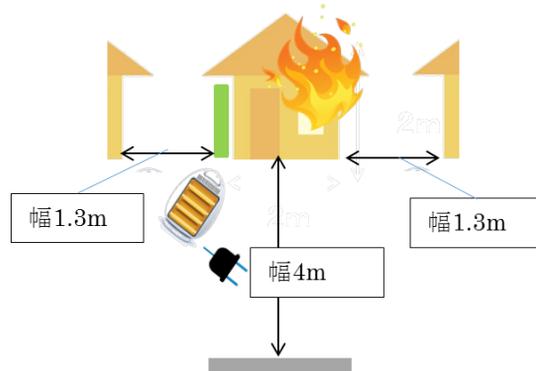


# ■体験学習（ブロック塀の倒壊、火災体験）

実際のもちに見立てたセット（家、生け垣、家に面する歩道とブロック塀）を用意し、災害発生時のリアルな状況を体験する学習を行いました。倒壊したブロック塀の重さや、火災の炎の怖さを実感して学ぶことができました。



## <体験学習配置図>



- 小屋（高さ2m×幅2m）
- ブロック塀（高さ1m×幅3.2m）
- 生け垣（木5本 高さ1m）

## 体験学習の流れ（シナリオと学習のねらい）

### ①地震により**ブロック塀が倒壊!**

地震により高さ1mのブロック塀が倒壊して、歩道を通行していた人が下敷きに！  
→ブロック塀を持ち上げて救助を試みる。

#### 学習のねらい

- ✓ ブロック塀は重く、簡単には持ち上がらないことを体感する。
- ✓ 倒れたブロック塀が通行の障害になってしまうことを確認する。



### ②地震の影響で**火災が発生!**（通電火災）

地震発生からまもなく、電気が回復したことにより、倒れた暖房器具から出火！  
さらに密接している建物への延焼も発生。

#### 学習のねらい

- ✓ 実際に燃えている建物からの輻射熱を体感。火の怖さを知る。
- ✓ 小屋の燃え方や、隣接した建物への延焼状況を観察する。また、生け垣があることによる燃え方の違いを観察する。



### ③消火器による**消火活動を開始!**

訓練用の水消火器を使って、実際に放水を行い、消火を試みる。

#### 学習のねらい

- ✓ 消火器による消火が可能な状態なのか考える。
- ✓ 火の消えにくさを体験して、初期消火の重要性を考える。



## <体験学習の様子>

### ■ 倒れたブロック塀

倒壊したブロック塀（高さ1m、横3.2m）に人が挟まってしまいました。救出できるでしょうか？



中学生6人で協力しても、重くてなかなか持ち上がりません。



大人のみなさんの協力により、やっと持ち上がりました。



倒れたブロック塀は、避難の際に通行の障害になる可能性も。

### ■ 小屋から火災が発生

高さ2mの小屋を、実際に燃やしました。炎は高く燃え上がり、本格的な火災の状況が再現されました。



炎が風によって横になびいて、今にも延焼しそうです。



火災の輻射熱を肌で感じました。



### ■ 炎上する小屋に消火器で放水

炎上している小屋に向けて、みんなで放水。しかし、すでに火の勢いが強くなっていて、なかなか消すことができません。



訓練用ではありますが、はじめて消火器を持った生徒も多かったのでは。



茅ヶ崎市の消防による消火。やっと火がおさまり始めました。



## <体験学習に参加した感想>

- はじめにやったブロック塀の持ち上げでは、ブロック塀の重さに驚きました。
- 私達だけではどうしようもできないことは、沢山あるんだと思いました。
- 火災体験では、小さかった火が大きい炎に変わって行って、もし、これが自分の家に起きてしまったらとか、近所の人に起きてしまったらとか、様々なことを考えさせられました。
- ブロックの重さや火事の体験ができて楽しかった。
- 話を聞くよりも、実際に体験した方が関心を持てた気がして、より分かりやすかったです。